

王燕 著

# 从日语教学的角度 看 授受表达方式

日本語教育の立場から見た授受表現

中国社会科学出版社

王燕 著

# 从日语教学的角度 看 授受表达方式

日本語教育の立場から見た授受表現

中国社会科学出版社

## 图书在版编目 (CIP) 数据

从日语教学的角度看授受表达方式/王燕著. —北京:  
中国社会科学出版社, 2010. 5  
ISBN 978 - 7 - 5004 - 8631 - 2

I. ①从… II. ①王… III. ①日语一句法一研究  
IV. ①H364. 3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 050202 号

责任编辑 王 茵  
责任校对 王有学  
封面设计 格子工作室  
技术编辑 王炳图

---

出版发行 **中国社会科学出版社**

社 址 北京鼓楼西大街甲 158 号 邮 编 100720

电 话 010—84029450 (邮购)

网 址 <http://www.csspw.cn>

经 销 新华书店

印 刷 北京君升印刷有限公司 装 订 广增装订厂

版 次 2010 年 5 月第 1 版 印 次 2010 年 5 月第 1 次印刷

开 本 710 × 1000 1/16

印 张 28.25 插 页 2

字 数 439 千字

定 价 59.00 元

---

凡购买中国社会科学出版社图书,如有质量问题请与本社发行部联系调换  
版权所有 侵权必究

# 序文 1

野村剛史

王燕さんの研究は、日本語の授受表現の実際についての研究である。その内容は本文を見てもらえば分かることだが、日本語では日常、ずいぶん授受表現を使っている。これは中国語には見かけられない文法・表現形式のようで、中国語の話者が日本語の授受表現を習い、使いこなせるようになるためには、多くの困難を乗り越えなければならない。

それでも、単純な「本動詞」としての授受表現は、まだ理解しやすい。特に難しいのは、「補助動詞」としての授受表現である。授受表現などは無くとも基本の意味は伝達できるから、面倒な授受表現などは略してしまいたくなる。ところが授受表現の省略は、実際のコミュニケーションの上では大変まずい。普通に生活していて、例えば他人に本を読んでもらう（授受表現）ような場合、「本を読んでください」（授受表現）と言わず、「私のために本を読みなさい」などと言ったら大変なのである。

王燕さんは、この複雑だが実際の言語使用ではとても役に立つ授受表現に興味を持ち、それをさまざまな用例に即して、中国語の話者に分かりやすいように體系化した。その細かな観察は、ネイティブの日本語話者もなかなか気づかないところにまで及んでいる。

私が東京大学に赴任したとき、王さんは既に大学院の学生だった。私は指導教官という立場を坂梨先生から引き継いだわけである。それからが大変で、王さんが中国語母語話者の立場から注目する現象に私が別の立場から意見を述べるということが、延々と続いた。夜遅くまでのやりとりで、お互いが天を仰いだこともあった。しかし、王さんは持ち前の粘り強さで、そ

うした困難を次々に乗り越えて優秀な博士論文を完成された。長い討論も、今となっては懐かしい思い出である。

王さんは現在、日本語の研究と教育を継続して行っている。立派な研究に基づかない日本語教育は、特にレベルの高い学生を納得させ得ないだろう。授受表現のような難しい研究を見事になしとげた王燕さんだから、きっとあらゆる分野で中国語話者に対する日本語教育の筋道を立ててゆくに違いない。それはまた、日本語の研究そのものにも多くの貢献を果たすものと期待されるのである。

## 序文 2

坂梨隆三

王燕さんは長年研鑽を重ね、「日本語教育の立場から見た授受表現——中国語母語話者を対象とする場合——」という博士論文を完成させ、現在は北京語言大学で教鞭をとっている。その博士論文は、この度、刊行されることとなった。本書には中国で実際に日本語教育にあたって得られた成果も取り込まれている。

王燕さんが東京大学の駒場キャンパスに研究生として入られたころは、中国の経済的な発展も今日のような目覚ましいものではなかった。物価高の東京で生活と研究を両立させていくことには困難もあったはずである。

日本では、アルバイトとして週何日かある会社で働いていた。アルバイト先をよく変える人も多い中、王燕さんは一つの会社に長く勤めていたと思う。それは、その会社のよき理解のおかげでもあっただろうが、同時に王さんの人柄によるところも大きかったのではないかと思う。

王さんは会社その他の場所における日本人との付き合いの中で、日本社会と中国社会を比較観察しながら、日本と中国の文化の違いを強く感じるようになっていった。そうしてそのような文化は言葉に表れていることに思い至り、中国語にはないけれども、日本語には存在する授受表現に興味を抱くようになった。たしかに日本における日常生活において、この授受表現はもっとも重要なものの一つと言ってよいだろう。

ちょうどその頃、東京大学大学院の総合文化研究科に言語情報科学専攻が設置され、王さんはその修士課程に入学し、さらに博士課程に進み、研究を続けたのである。

王さんは、授受表現に関する膨大な文献を読み込みつつ、ときどき研究の成果を見せに来てくれた。その度ごとに、日本語の様々な資料群から、授受表現に関わる多くのふさわしい用例が収集され、それが体系的に整理分類されていくのを感じてきたのである。

助詞の「は」と「が」や、授受表現の「やる」「くれる」「もらう」「あげる」「くださる」などについての微妙な語感については母語話者に比べて、非母語話者である王さんにとってはハンディもかなりあったはずである。授受表現に関して、特にその用例の意味については、日本語話者として私の方が王さんよりも、理解が深いはずだと、初めのうちはたかをくくっていたところがあった。ところがある頃から、そこに示される多くの用例を前にして、私は自分自身で、その複雑な授受表現の意味がこんがらかってあやふやになり、徐々に王さんの指摘に納得し、却って教えられることが多くなっていったのである。そして、ああ、王さんはもうずいぶん高いところに到達したなあと思ったものだった。

王さんはスケールの大きな見方をする。そして常に高い理想を目指している。その姿勢を変えることなく今日まで研究を続けてきた。

今、中国において日本語教育に携わる中で、王さんは日々新たな発見をしているのではなからうか。「あげる」「くださる」「いただく」などといった語は授受表現のほかに敬語表現にも関わるところがある。そしてまた、それらの敬語性は時代とともに変化していくところがある。

そのようなことも勘案しつつ、王さんの研究が今後さらに大きく発展していくこと願っている。

2009 年 12 月 2 日

# 目 次

## I 序 論

|                   |      |
|-------------------|------|
| 1 本研究の背景 .....    | (3)  |
| 2 先行研究の概観 .....   | (5)  |
| 3 本研究の対象と方法 ..... | (12) |
| 3.1 研究対象 .....    | (12) |
| 3.2 研究方法 .....    | (27) |
| 4 本研究の構成 .....    | (29) |
| 5 本研究の目的 .....    | (31) |

## II 本 論

### 第1章 授受動詞の特徴

|                          |      |
|--------------------------|------|
| ——中国語との比較を通じて—— .....    | (35) |
| 1 関連用語の本研究での定義 .....     | (35) |
| 1.1 「授受動詞」と「授受の動詞」 ..... | (35) |
| 1.2 「授受表現」と「授受の表現」 ..... | (36) |
| 1.3 「与え手」と「受け手」 .....    | (36) |
| 1.4 「授与動詞」と「取得動詞」 .....  | (38) |
| 2 授受動詞の意味上の特徴 .....      | (39) |
| 2.1 授与動詞の意味・用法 .....     | (39) |
| 2.2 中国語の授与動詞“给” .....    | (50) |



## 2 日本語教育の立場から見た授受表現

|     |                       |      |
|-----|-----------------------|------|
| 2.3 | 取得動詞の意味・用法            | (54) |
| 2.4 | 中国語の取得動詞“要・收・領・获・得”など | (56) |
| 2.5 | 授受動詞の待遇性について          | (63) |
| 2.6 | まとめ                   | (66) |
| 3   | 授受動詞の使用上の特徴           | (66) |
| 3.1 | 授受動詞の人称制約             | (67) |
| 3.2 | 授受動詞における「人称」の特異性      | (72) |
| 3.3 | 授受動詞の視点制約             | (77) |
| 4   | 授受動詞の特徴               | (87) |
| 4.1 | 授受動詞の待遇性              | (88) |
| 4.2 | 授受動詞の恩恵性              | (89) |
| 4.3 | 授受動詞の方向性              | (89) |
| 4.4 | 授受動詞の立場性              | (91) |
| 5   | 本章のまとめ                | (91) |

## 第2章 授受動詞の文法化

|     |                              |       |
|-----|------------------------------|-------|
|     | ——授受補助動詞の基本的な意味機能——          | (94)  |
| 1   | 授受動詞の文法化                     | (95)  |
| 1.1 | 本動詞と補助動詞                     | (95)  |
| 1.2 | 授受補助動詞構文の立場性                 | (98)  |
| 1.3 | 授受補助動詞の文法的な意味機能              | (102) |
| 2   | 授受補助動詞の基本的な意味機能              | (108) |
| 2.1 | 「利益態」に拠る授受表現の指導              | (108) |
| 2.2 | 基本的な意味機能をもつ授受補助動詞の<br>基本構文   | (110) |
| 2.3 | 授与補助動詞の受益者指示機能               | (111) |
| 2.4 | 方向性による授受補助動詞の省略回復機能<br>..... | (142) |
| 3   | 本章のまとめ                       | (156) |

### 第3章 授受補助動詞の表現効果

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| ——授受補助動詞の派生的な意味機能——       | (157) |
| 1 「恩恵の授受」をさらに抽象化させた授受補助動詞 | (158) |
| 1.1 受益者からの感謝を期待しないテヤル     | (158) |
| 1.2 物事に対するプラス評価を表すテクレル    | (174) |
| 1.3 働きかけのないテモラウ           | (204) |
| 2 アイロニー的な授受補助動詞           | (218) |
| 2.1 テヤル構文の場合              | (219) |
| 2.2 テクレル構文の場合             | (223) |
| 2.3 テモラウ構文の場合             | (225) |
| 2.4 まとめ                   | (228) |
| 3 本章のまとめ                  | (228) |

### 第4章 授受補助動詞の意味機能の再確認

|                         |       |
|-------------------------|-------|
| ——「使役＋授受」の複合形式を手掛かりに——  | (230) |
| 1 問題の提起                 | (231) |
| 2 「～(き)せる」の意味機能の整理      | (233) |
| 3 「～(き)せてやる」の場合         | (237) |
| 3.1 テヤルの意味機能            | (237) |
| 3.2 「～(き)せてやる」の意味機能     | (239) |
| 3.3 「～(き)せてやる」に対応する中国語  | (248) |
| 4 「～(き)せてくれる」の場合        | (252) |
| 4.1 テクレルの意味機能           | (253) |
| 4.2 「～(き)せてくれる」の意味機能    | (255) |
| 4.3 「～(き)せてくれる」に対応する中国語 | (266) |
| 5 「～(き)せてもらう」の場合        | (269) |
| 5.1 テモラウの意味機能           | (269) |
| 5.2 「～(き)せてもらう」の意味機能    | (270) |
| 5.3 「～(き)せていただく」        | (278) |
| 5.4 「～(き)せてもらう」に対応する中国語 | (281) |

#### 4 日本語教育の立場から見た授受表現

- 6 「～(さ)せてくれる」と「～(さ)せてもらう」について …… (284)
  - 6.1 許可要求の「～(さ)せてくれる?」と「～(さ)せてもらう?」 …… (285)
  - 6.2 「～(さ)せてくれない」と「～(さ)せてもらえない」 …… (286)
- 7 複合形式でない「～(さ)せてくれる/もらう」 …… (287)
- 8 本章のまとめ …… (290)

### 第5章 授受補助動詞構文の外的連関について

- テモラウ構文の場合—— …… (294)
- 1 ヴォイス的な表現としてのテモラウ構文 …… (294)
- 2 テモラウ構文と使役文・受身文との相関関係 …… (301)
- 3 使役文と相補的な関係にあるテモラウ構文 …… (315)
  - 3.1 使役的授益のテモラウ …… (315)
  - 3.2 使役的謙譲のテモラウ …… (322)
  - 3.3 使役的依頼のテモラウ …… (324)
- 4 受身文と相補的な関係にあるテモラウ構文 …… (335)
  - 4.1 受身文とテモラウ文の関係に関する先行研究 …… (335)
  - 4.2 第三者の受身文と単純受益のテモラウ文 …… (339)
  - 4.3 迷惑感情を表すテモラウ …… (346)
- 5 本章のまとめ …… (348)

### 第6章 語用論の観点から見た授受表現

- 敬語との関わりを中心に—— …… (350)
- 1 授受表現における敬語 …… (352)
  - 1.1 待遇表現の基幹となす授受表現と敬語表現 …… (352)
  - 1.2 「謝意の視線」と「敬意の視線」 …… (353)
  - 1.3 授受本動詞による敬語表現 …… (362)
  - 1.4 授受補助動詞による敬語表現 …… (372)

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 2 授受表現における「ウチ・ソト」 .....        | (379) |
| 2.1 待遇表現における「ウチ・ソト」の定義 .....   | (380) |
| 2.2 授受動詞の方向性と「ウチ・ソト」 .....     | (380) |
| 2.3 敬語表現における「ウチ・ソト」 .....      | (382) |
| 2.4 授受表現における「ウチ・ソト」 .....      | (383) |
| 3 授受表現に見られる日本語母語話者の「場」意識 ..... | (401) |
| 4 本章のまとめ .....                 | (407) |

### Ⅲ 結 論

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 1 本研究のまとめ .....   | (413) |
| 2 日本語教育への提言 ..... | (419) |
| 3 今後の課題 .....     | (423) |
| 参考文献 .....        | (424) |
| 例文出典 .....        | (433) |
| 謝辞 .....          | (438) |

# I 序 論

本研究は中国語母語話者を対象とする日本語教育の立場から、先行研究を踏まえ、日本語独特の表現形式と言われてきた授受表現について、自らの考察を加え、その意味構造<sup>①</sup>の解明に貢献しようとするものである。中国語母語話者である学習者を念頭においての考察なので、中国語との比較も必要に応じて触れるが、本研究は日中両国語における授受表現の対照研究ではなく、あくまでも日本語の授受表現に焦点を当てたものである。日本語教育への応用を志向する研究であるため、折に触れての中国語との比較は、中国語に見られない日本語の授受表現の意味機能<sup>②</sup>の特徴を際立たせるためのアプローチにすぎない。

---

① ここで言う「意味構造」とは、いかなる意味的な動機付けによって結び付いたか、という授受表現という言語形式の仕組みのことである。

② 本研究では、授受動詞と授受補助動詞が構文での意味役割を授受表現の意味機能とする。

# 1 本研究の背景

授受表現に関する研究は、日本語文法研究における重要な課題の一つとして大きな関心が寄せられてきたばかりでなく、日本語教育の分野でも盛んに論じられてきた。その背景には、授受表現に関して日本語が他の言語にはあまり見られない複雑な表現形式による豊かな表現効果を有するという事実がある。そのため、授受表現は日本語の重要な特徴であると同時に日本語学習者を悩ます原因にもなっている<sup>①</sup>。これまで日本語の授受表現に関しては、多くの研究者によってさまざまな観点から論じられてきたし、中国語との対照に関する考察も多くなされてきた。その結果、日本語の授受表現の特質と思われるようなところがだいぶ解明されてきた。しかし、今現在の授受表現の意味機能はすでに先学の研究によって明らかにされたものを越えている。つまり、授受表現という言葉形式による日本語の表現領域は今までのどの時代よりも広がっている。にもかかわらず、その言語事実に対する記述は遅れている。世界範囲の日本語ブームのおかげで、授受表現は日本語独特の表現形式として注目されるようになって久しいが、日本の内外問わず、その研究は部分的な記述が多く、日本語教育の立場から、授受表現を体系的に捉えて考

---

① 蒲谷宏(2001: 53)では、授受動詞は「日本語を母語としない学習者にそれを習得させるということがおそろしくやっかいな課題である」とされる一方、「授受動詞を用いた授受表現は現代日本語において非常に重要な表現であるだけに、日本語教育における指導上の重要な項目にもなる」との指摘が見られる。

察したものはまだ見当たらない<sup>①</sup>。また、数多くの先行研究が行われてきたにもかかわらず、その研究成果は日本語教育では十分に生かされていないのも実状である。一方、中国における日本語教育の現場では、授受表現が日本語母語話者の実際の言語使用での極一部分としてしか取り上げられていないため、異文化コミュニケーションのための語学教育の実現に支障を齎しかねないと言っても過言ではない。これらのすべてが、授受表現を断片的に捉えるところに原因があると思われる。そこで、本研究では、先行研究を踏まえて、中国語母語話者を対象とする日本語教育の立場から、今まで中国における日本語教育の現場で取り上げられてきた授受表現をもっと広い視野で体系的に捉え、現代日本語の言語表現におけるその全体像を少しでも明らかにしようと試みる。

---

① 授受表現に関する纏まった研究と言えば、山田敏弘（2004）が挙げられる。しかし、『日本語のベネファクティブ―「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』というタイトルから分かるように、山田（2004）は授受表現の中の授受補助動詞構文だけを取り上げ、その意味機能について記述したものである。三系列七形式の授受補助動詞群を「ベネファクティブ」という用語で括る理由の一つも、授受本動詞ではなく、授受補助動詞としての用法に限定するためとのことである。また、山田（2004）では、日本語教育でよく話題になる運用上の問題も扱われていない。



## 2 先行研究の概観

この節では、本研究の道標となっている授受表現の先行研究<sup>①</sup>を概観し、日本語教育に即して考えた場合、残された課題は何かについて述べる。

松下大三郎（1928）の「利益態」説をはじめ、佐久間鼎（1936）、市河三喜・服部四郎共編（1955）、鈴木重幸（1972）などの授受表現に関する研究は、中国の日本語教育に多大な影響を与えた。

授受表現がもつ恩恵という意味を、体系的に明示した最も初期の研究者は松下（1928）である。氏の『改選標準日本文法』では、「利益の意味」や「感謝の意」が読み取れる授受補助動詞構文は「利益態」と名づけられ、動詞の相の一つと位置づけられている（下線は筆者による<sup>②</sup>）。

利益態は動詞の一相であって其の作用が或る人の利益となることを表すものである。例えば（1）彼の人が私を連れて行った。（2）彼の人が私を連れて行って呉れた。の（1）の「連れて行った」は何等利益の意味を表して居ないが（2）の「連れて行って呉れた」は彼の人の動作が私の利益になる意味があり、彼の人に対する私の感謝の意が現れて居る。（2）の「連れて行って呉れた」は「連れて行く」という動詞の利益態である。（松下 1928：394）

---

① 序論では、中国における日本語教育に影響を与えた先行研究だけを概観しておく。各章では、必要に応じてより具体的な先行研究にも触れる。

② 本研究では、例文の授受動詞や授受補助動詞が使われるところをはじめ、「注目してほしいところ」という意味で施す下線はすべて筆者による。また、引用した先行研究や例文の中の括弧付きの部分も筆者による。